

看護学生における職業的アイデンティティとスピリチュアリティ およびパーソナリティの関連性

牧野かおる¹⁾, 比嘉 勇人²⁾

- 1) 富山医療福祉専門学校看護学科
2) 富山大学学術研究部医学系精神看護学講座

要 旨

本研究の目的は、看護学生の職業的アイデンティティとスピリチュアリティおよびパーソナリティとの関連性を明らかにし、職業的アイデンティティ確立促進のための教育支援への示唆を得ることである。A県内の看護学生 567 人を対象に無記名自記式質問紙調査を行い、450 部の有効回答を得た。その回答データを用いて共分散構造分析を実施した結果、概ね良好な適合度を示す因果仮説モデルが採用された。また、採用された因果仮説モデルの標準化係数において、「パーソナリティから職業的アイデンティティへの直接効果 0.27」と「パーソナリティからスピリチュアリティを介した職業的アイデンティティへの間接効果 0.34」が確認された。以上より、看護学生のパーソナリティを構成する「基本的信頼感」「同一性」「自律性」を高める教育支援（受容、承認、保証・激励）が職業的アイデンティティ確立促進に効果的であることが示唆された。

キーワード

職業的アイデンティティ、スピリチュアリティ、パーソナリティ、人格的活力

はじめに

多くの看護学生は青年期の発達段階にある。Erikson が提唱したライフサイクル論によると、青年期の心理社会的危機である急性のアイデンティティ拡散状態が顕在化するのとは決定的な職業選択に迫られていることに若者自身が気づいた時である¹⁾。実際に中谷ら²⁾の研究はアイデンティティ拡散状態が実在することを示唆している。つまり、看護職に就くという進路決定を目前に控える看護学生はアイデンティティ拡散の危機に曝されているといえる。看護学生がアイデンティティ拡散状態に陥ると、卒業延期、看護職に就くことの断念、学業生活への不適応（講義・臨地実習への不適応や意欲の低下）などが危惧され、更に程度によっては神経症様症状を呈することさえもあ

ることを中谷²⁾らの研究は示唆している。千葉の調査³⁾によると、在学中に約半数の看護学生が看護師になることを断念しようと考えたことがあり、その理由で最も多いのが自分は看護師に向いていないと感じたことであった。そして、高畑ら⁴⁾は看護学生の職業的アイデンティティの脆弱性について言及し、高瀬ら⁵⁾は看護基礎教育において職業的アイデンティティ形成のプロセスに注目した教育支援の現状を把握する必要性について言及している。

このように、看護学生の学業に対する不適応行動の背景にアイデンティティ拡散の顕在化が疑われることから、職業的アイデンティティ確立に向けた教育支援への示唆を得ることで、学業への不適応を起こしている看護学生への教育的一助となることが期待できる。

「職業的アイデンティティを決められないことが、何よりも若い人々を混乱させる」¹⁾と Erikson は述べている。Erikson は職業的アイデンティティについて明確に定義づけてはいないが、心理・社会的モラトリアムの期間に「個人は、自由な役割実験を通して、社会のある特定の場所に適所を見つける」¹⁾と述べ、同時に「〈一人の人間としての機能と地位が与えられる〉ということが、若者たちのアイデンティティ形成にとって重要なのである」¹⁾とも述べている。また、1980年代に青年期において職業がアイデンティティ確立の主要な因子であると考えられるようになった⁶⁾。そして、藤井ら⁷⁾も青年期の職業的アイデンティティのアイデンティティ確立に果たす役割の大きさに言及している。

日本国内においては1990年以降、学生の職業的アイデンティティに関する研究が散見されるようになった。内容は、職業的アイデンティティの性質に関すること、職業的アイデンティティ確立に影響を及ぼす要因を明らかにしたもの、職業的アイデンティティの確立を促すための支援について検討したもの等がある。職業的アイデンティティの確立のための支援については、講義内容の工夫・実習前指導の効果を明らかにするものなどがあつた⁸⁻¹⁰⁾。

看護学生の職業的アイデンティティへの関心は低くなく、確立を促す要因については一定の知見が蓄積されているといえる。しかし、看護学生の職業的アイデンティティ確立に向けた継続的支援への方策に関する学術的研究は決して多くない。

浜多ら¹¹⁾は、看護学生の私的スピリチュアリティ（つながり性）が高まると看護学生としてのアイデンティティが確立傾向に向かうことを見出している。「看護学生としてのアイデンティティ」を看護師を目指す一貫した自己意識と定義づけており¹¹⁾、本研究で扱う「看護学生の職業的アイデンティティ」とは厳密には同義ではない。しかし、いずれも青年期の心理社会的発達課題のアイデンティティ確立との関連性が推察される。

また、上村はスピリチュアリティと「意味(meaning)」との関連性について言及し¹²⁾、この「意味」には「意図・目的・価値」が付帯されて

いることを指摘している。加えて、スピリチュアリティには「危機状態の出来事に意味を付与し、危機状況から回復させる機能がある」¹²⁾と述べている。ここで述べられた「意味の付与」は「意味のつながり」と同義であり、「つながり」はスピリチュアリティを定義づける重要語でもある¹³⁾。したがって、アイデンティティ拡散の危機に看護学生が陥った時、看護学生のスピリチュアリティの機能向上が危機解決の一要件なりうることが予測される。

Erikson は、人生の危機体験を順次積み重ねながら漸成的(epigenetic)に獲得していく「基本的信頼感(basic trust)」「自律性(autonomy)」「自主性(initiative)」「生産性(industry)」「同一性(identity)」などの自我感の有り様をパーソナリティと呼び¹⁴⁾、併せて健康なパーソナリティに必要な性質(spirited quality)である「希望(hope)」「意志(will)」「目的(purpose)」「有能感(competence)」「忠誠(fidelity)」などを人格的活力(virtue)と総称した¹⁵⁾。人格的活力は、次の段階の心理社会的危機を解決する力となり、それぞれの人格的活力は前段階の人格的活力を前提としながら、順次のその上に積み重ねられていく機能的統一体である¹⁵⁾。そして、人格的活力は人に生得的に備わる生きるための強さ(自我を支える力)¹⁶⁾であり、「希望」「意志」「目的」「有能感」「忠誠(信じきる尽くすところ)」はスピリチュアリティの構成内容「何かを求めそれに関係しようとするところのモチようであり(意気)、自分自身やある事柄に対する感じまたは思い(観念)」¹⁷⁾に包摂されていると考えられる。

また、人格的活力の涵養により成熟したパーソナリティは「自-他の相互性(社会化)」に寄与すると Erikson が述べていることから¹⁸⁾、人格的活力は「自-他の結びつきを志向するつながり性」を有していると推察される。

以上のことより、スピリチュアリティと人格的活力には重なる部分があり、パーソナリティの成熟、すなわち同一性の感覚の獲得、あるいは職業的アイデンティティの確立にスピリチュアリティが関与していることが推察される。

そこで、本研究では看護学生の職業的アイデン

ティティとスピリチュアリティおよびパーソナリティの関連性を明らかにすることを目的とし、確認された結果から職業的アイデンティティの確立に向けた教育支援への示唆を得たいと考えた。

1. 本研究の概念枠組み

因果仮説モデル（図1）として、スピリチュアリティには人格的活力の機能を包摂すると想定し、Eriksonのライフサイクル論に基づき「看護学生の職業的アイデンティティ（看護職一体意識）は、パーソナリティ（漸成的自我感）からスピリチュアリティ（人格的活力）を介して間接効果を受け、またパーソナリティから直接効果を受ける」と仮定した。

2. 用語の定義

1) 職業的アイデンティティ

「自分なりの看護観を内在化させ、自分の能力を信じ、自分自身が独自の存在であると認め、看護職を目指すことが自分に合っているという看護学生の自己意識の感覚」とする¹⁹⁾。

2) スピリチュアリティ

「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的つながり性」とする²⁰⁾。

3) パーソナリティ

「基本的信頼感・自律性・自主性・生産性・同一性で構成される自我感」とする¹⁴⁾。

研究対象と方法

1. 研究デザイン

関係探索研究（質問紙調査法）

2. 研究対象者

A県内の看護専門学校および専門学校看護学科に在籍する1～3年生の専門学校生

3. 調査期間

2020年11月～12月

4. 調査方法

研究対象である専門学校生に研究協力依頼書兼研究説明書と質問票を配布して、文書および口頭で本研究について説明し、質問票への記入と1週間後に回収される留め置き法による回収箱への投函を依頼した。

5. 調査項目

1) 基本属性

学年（1～3学年）

2) 看護学生の職業的アイデンティティ

藤井ら^{7, 21, 22)}が開発した医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度の質問項目を看護学生向けに変更した上で使用した。この尺度は、「医療職の選択と成長への自信（選択自信）」・「医療観の確立（職業観確立）」・「医療職として必要とさ

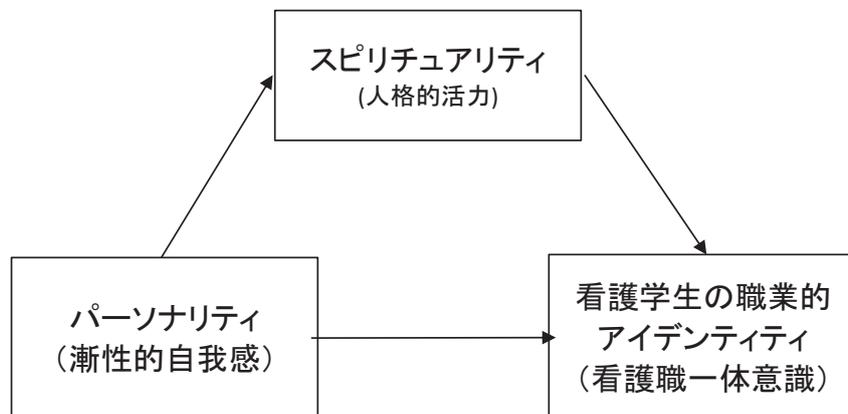


図1 因果仮説モデル

れることへの自負（必要自負）「社会への貢献の志向（社会貢献志向）」の4下位尺度で構成される。下位尺度ごとの質問項目数はそれぞれ10項目、8項目、8項目、6項目であり、合計32項目の質問で構成される。本研究では、先行研究⁴⁾に倣い主因子分析の結果から、各因子負荷量の高い上位5つの質問項目（計20項目）を採用し、「全くあてはまらない」～「非常にあてはまる」の5段階評定で得点化した（各得点レンジ：5～25）。総得点が高いほど職業的アイデンティティの確立が高いことを示す。

3) スピリチュアリティ

比嘉¹⁷⁾が開発したスピリチュアリティ評定尺度A（SRS-A）を使用した。この尺度は「意気」6項目と「観念」9項目の2下位尺度で構成される尺度である。「全く思わない」～「非常によく思う」までの5段階評定で得点化した。「意気」（得点レンジ：6～30）と「観念」（得点レンジ：9～45）の総得点が高いほどスピリチュアリティ（personal spirituality）が高いことを示す。

4) パーソナリティ

Eriksonのパーソナリティ構成要素の測定尺度を使用した。この尺度は、藤村^{14, 23)}によって作成されたEriksonの提唱した人生周期のうち乳児期～前成人期の心理社会的危機の解決をとおして内在化された自我感に特徴づけられる人格構成要素の状態を測定できる尺度である。本尺度は、「基本的信頼感」「自律性」「自主性」「生産性」「同一性」「親密性」各7項目6下位尺度で構成される。本研究では、看護学生に適用できる「基本的信頼感」から「同一性」までの5つの下位尺度を使用し、「全くあてはまらない」～「非常にあてはまる」までの5段階評定で得点化（各得点レンジ：1～5）した。各得点の高さは各自我感の高さを示す。

5) 目指す看護師像

調査票の最終ページで、「どのような看護職を目指したいですか」を尋ね、自由記述による回答を求めた。

6. 分析方法

1) 基本統計量と一元配置分散分析

各学年の度数と各変数の基本統計量をSPSS Ver.28を使い算出した。

2) 職業的アイデンティティとスピリチュアリティおよびパーソナリティとの相関分析

使用した尺度開発者らの分析方法を踏襲し、Pearson積率相関係数をSPSS Ver.28を使い算出した。相関係数 r の効果量については、0.20～0.40の場合「Small」、0.40～0.70の場合「Medium」、0.70以上の場合「Large」と判断した。

3) 因果仮説モデルの共分散構造分析

本研究で仮定した因果仮説モデルのパス係数および適合度をAmos Ver.28を使い算出した。算出過程において有意（ $p < 0.05$ ）なパス係数のみを用い、最終的な適合度についてはGFI（Goodness of Fit Index）、AGIF（Adjusted Goodness of Fit Index）、CFI（Comparative of Fit Index）、RMSEA（Root Mean Square Error of Approximation）の各指標を用いて総合的に判断した。

4) 目指す看護職像（自由記述）の内容分析

まず、人格的活力を表すスピリチュアリティ評定尺度A総合得点の平均値と標準偏差をから高群（平均値+標準偏差以上）と低群（平均値-標準偏差以下）に分けた。次に、目指す看護師像を表現した箇所を抽出して抽象化し数量的に表示することで、両群の特徴を比較分析した。

倫理的配慮

研究対象者の所属する看護専門学校を訪れ、本研究について口頭および文章で説明するとともに、研究への協力は自由意思であり協力しなくても不利益は全くないこと、本研究以外に得られたデータを使用しないことを説明した。記入済みの質問紙の提出をもって本研究への協力を同意したと見做すこと、無記名自記式アンケートを使用しているため提出後の対応が不可能であること、学校名を含む個人情報を取得しないこと、研究対象

者の自由記述により得られたデータに個人が特定できる可能性のある情報が含まれていないことを研究成果公表時には十分に確認することを併せて説明した。

なお、本研究の対象校は全学年が在籍している必要があり、一部の学年が欠けている看護専門学校は対象外とした。筆者はこの対象外であった看護専門学校に調査時期に在籍していた。そのため、研究対象者と筆者は利害関係にはない。

本研究は「富山大学人間を対象とし医療を目的としない研究倫理審査委員会」の承認を得て実施した。(整理番号 J2019021, 承認月日 2020年5月8日)

結 果

調査協力への承諾を得られた A 県内に所在する 3 年課程の看護専門学校 3 校の在校生 567 人を対象とした。うち 503 件 (回答率 88.71%) の回答を得て、自由記述回答未記入以外の質問項目への回答に不備のない 450 件 (有効回答率 79.37%) を分析対象とした。

1. 基本統計量と一元配置分散分析

各学年の度数は、1 年生 151 人 (33.56%)、2 年生 150 人 (33.33%)、3 年生 149 人 (33.11%) であった。

使用した 3 尺度 11 下位尺度の Cronbach の α 係数を算出した結果は表 1 に示したとおりであり、全ての α 係数が 0.7 以上であった。

他の変数の基本統計量および学年別の職業的アイデンティティ尺度総得点の一元配置分散分析については表 2 に示した。学年別の職業的アイデンティティ尺度総得点には有意差 ($p = 0.001$) が認められた。

rmsea0=.05, rmseaA=.01, 自由度 =34, α エラー =0.05, 検出力 =0.8 と設定し、共分散構造分析に必要な最小データ数を後追いで算出したところ 339 件であり、本研究で確保できたデータ数は 450 件であることから、全体での共分散構造分析に必要なデータ数は確保できた。

しかし、学年別に分けて共分散構造分析を実施できるほどにはデータ数が確保できなかった。そこで、剰余変数としての学年の効果量を検討するために、効果量 η^2 値を算出した。剰余変数としての学年の効果量が Small ($\eta^2 = 0.03$) であったため、以下では学年別ではなく学年全体 (N=450) の分析を行った。

表 1 各尺度の Cronbach の α 係数表

N=450		
尺度	α 係数	項目の数
看護学生の職業的アイデンティティ尺度	0.91	20
職業選択自信	0.86	5
職業観確立	0.88	5
必要自負	0.90	5
社会貢献	0.92	5
SRS-A	0.90	15
意気	0.77	6
観念	0.89	9
エリクソンのパーソナリティ構成要素の評定尺度		
基本的信頼感	0.88	7
自律性	0.82	7
自主性	0.83	7
生産性	0.82	7
同一性	0.85	7

表2 各尺度の基本統計量

N=450

尺度	下位尺度	度数	得点範囲	平均値±標準偏差		
職業的アイデンティティ尺度合計得点		450	31-100	78.65±11.42		
基本属性属性					p	η ²
学年	1年生	151	31-100	80.15±11.67	0.001	0.03
	2年生	150	34-100	75.80±11.42		
	3年生	149	38-98	80.01±10.66		
選択自信尺度					一元配置分析による	
職業観確立尺度						
必要自負尺度						
社会貢献志向尺度						
スピリチュアリティ評定尺度A総合得点		450	23-75	47.19±9.88		
意気尺度						
観念尺度						
エリクソンのパーソナリティ構成要素の評定尺度						
基本的信頼感尺度						
自律性尺度						
自主性尺度						
生産性尺度						
同一性尺度						

2. 各変数間の相関分析

職業的アイデンティティとスピリチュアリティおよびパーソナリティとの相関係数については表3に示した。職業的アイデンティティ尺度総得点とスピリチュアリティ評定尺度A総得点の効果量はMedium (r = 0.57)であった。また、職業的アイデンティティ尺度総得点とパーソナリティ構成要素の測定尺度の下位尺度の効果量は、「基本的信頼感」がMedium (r = 0.41), 「自律性」(r = 0.10)と「自主性」(r = 0.19)に有意性のある

効果量は認められず、「生産性」がSmall (r = 0.30), 「同一性」がSmall (r = 0.23)であった。スピリチュアリティ評定尺度A総得点とパーソナリティ構成要素の測定尺度の下位尺度の効果量は、「基本的信頼感」がMedium (r = 0.67), 「自律性」がSmall (r = 0.34), 「自主性」がSmall (r = 0.27), 「生産性」がSmall (r = 0.35), 「同一性」がMedium (r = 0.43)であった。この結果より、前提要件を満たしていると判断し、共分散構造分析を実施した。

表3 職業的アイデンティティとスピリチュアルティ, パーソナリティの相関係数

N=450

	下位尺度	看護学生の職業的アイデンティティ尺度					SRS-A			エリクソンのパーソナリティ構成要素の評定尺度				
		総得点	選択自信	職業観確立	必要自負	社会貢献志向	総得点	意気	観念	基本的信頼感	自律性	自主性	生産性	
職業的アイデンティティ尺度	選択自信	0.79***												
	職業観確立	0.77***	0.58**											
	必要自負	0.60**	0.18	0.20*										
	社会貢献志向	0.80***	0.55**	0.48**	0.37*									
SRS-A	総得点	0.57**	0.51**	0.55**	0.22*	0.41**								
	意気	0.55**	0.47**	0.50**	0.23*	0.42**	0.84***							
	観念	0.49**	0.45**	0.49**	0.17	0.33*	0.94***	0.59**						
エリクソンのパーソナリティ構成要素の評定尺度	基本的信頼感	0.41**	0.38*	0.40**	0.14	0.27*	0.67**	0.45**	0.70***					
	自律性	0.10	0.13	0.24*	-0.07	-0.03	0.34*	0.21*	0.37*	0.35*				
	自主性	0.19	0.18	0.28*	-0.01	0.11	0.27*	0.18	0.28*	0.34*	0.34*			
	生産性	0.30*	0.29*	0.23*	0.13	0.24*	0.35*	0.26*	0.35*	0.26*	0.16	0.33*		
	同一性	0.23*	0.25*	0.29*	0.01	0.14	0.43**	0.25*	0.48**	0.54**	0.46**	0.42**	0.29*	

ピアソン積率相関係数による 効果量r : * = Small: 0.20 ≤ |r| < 0.39 ** = Medium: 0.40 ≤ |r| < 0.69 *** = Large: 0.70 ≤ |r| ≤ 1.00

3. 共分散構造分析による因果仮説モデルの検討

共分散構造分析の結果を図2に示した(推定されたパス係数は標準化解). 適合度は概ね良好であった(GFI = 0.97, AGFI = 0.93, CFI = 0.97, RMSEA = 0.06).

また, パーソナリティから職業的アイデンティティへの直接効果は $r = 0.27$, パーソナリティからスピリチュアリティへのパス係数 0.84 とスピリチュアリティから職業的アイデンティティへのパス係数 0.40 から, スピリチュアリティを介したパーソナリティの職業的アイデンティティへの間接効果は $r = 0.34$ であった. したがって, 本研究の因果仮説モデルの総合効果は $r = 0.61$ であった.

4. スピリチュアリティ評定尺度A総得点の高低別の自由回答記述内容の比較

共分散構造分析により確認された因果仮説モデル図より, スピリチュアリティは職業的アイデンティティ確立促進において媒介的な役割を果たすことが示唆された.

スピリチュアリティ評定尺度A 総得点の平均値と標準偏差が 47.19 ± 9.88 であったため, 総得点が 58 ($47.19+9.88$) 以上を高群, 総得点が 37 ($47.19-9.88$) 以下を低群とした. 高群は 72 件,

低群は 76 件であった. そのうち記述回答のあった高群 52 件, 低群 54 件の内容を分析対象とした. 分析結果を表4と5に示す.

1) スピリチュアリティ評定尺度A 総得点高群および低群共通傾向

いずれの群においても, 「信頼される」「必要とされる」「安心できる」「寄り添える」「患者を慮る」「優しい」「成長する」のサブカテゴリーが確認された.

2) スピリチュアリティ評定尺度A 総合得点高群記述内容の傾向

「頼られる」「ニーズにあった看護ができる」「自信のある」等肯定的なサブカテゴリーが確認された. また, 「看護に一生懸命」と, より良い看護職を目指すための努力を志向したものが確認された.

3) スピリチュアリティ評定尺度A 総得点低群記述内容の傾向

記述内容は「役に立つ」等の肯定的な傾向の内容が少なくなったが, カテゴリー化できなかった回答内容の中には, 目指す看護職像が「分からない」「看護師になりたくない」と否定的な傾向の

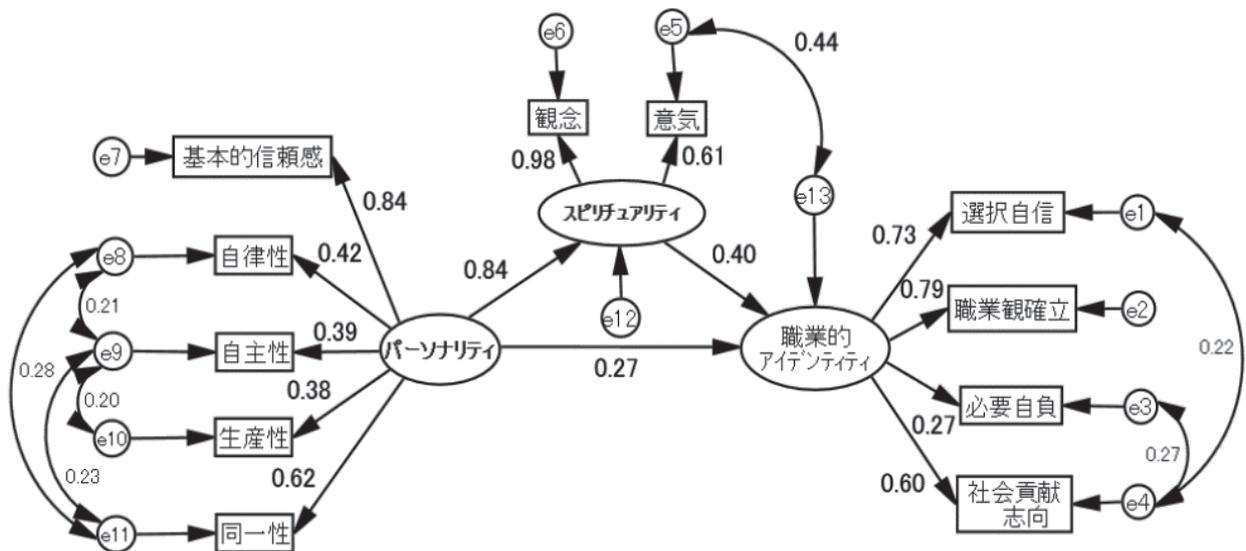


図2 共分散構造分析結果

(GFI = 0.97, AGFI = 0.93, CFI = 0.97, RMSEA = 0.06, パス係数は標準化解, 係数は全て $p < 0.05$) N = 450

表4 スピリチュアリティ高群の自由回答記述内容

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容等	数
患者等に受け入れられる	信頼される	信頼される	4
		患者に信頼される	1
		他の医療従事者に信頼される	2
		誰からも信頼される	2
	頼られる	頼られる	5
		患者に頼られる	2
		患者だけでなく患者の家族にも頼られる	1
	必要とされる	必要とされる	2
		患者さんに必要とされる	1
		ありがとうと言いたくなる看護師	1
安心できる	患者が安心できる	2	
	安心・安全な看護ができる	3	
患者の気持ちがわかる	寄り添える	患者に寄り添える	3
		患者の不安に寄り添える	1
		よりそえる看護師	2
	患者を慮る	患者とその家族に寄り添える	2
		患者さんの立場になって考えられる	1
優しい	患者を慮る	相手を思いやる	1
		患者さんのことを第一に考えられる	1
	優しい	患者さんの1番の味方	1
		心と体を支えることができる	1
	ニーズに合った看護ができる	人に優しくしたい	1
		だれにでもやさしく接することができる	1
		やさしい	1
		思いやりのある	1
		あたたかい心で看護を行う	1
	自己研鑽できる	成長する	心のよりどころになれる存在
患者の要望を叶えてあげられるような看護師			1
患者のニーズにあった看護			1
その人に合った看護ができる			1
患者の希望によりそえる看護職			1
看護に一生懸命		患者、家族を笑顔にしたい	1
		自分の力をずっと伸ばし続けたい	1
		これからも学び続ける	1
広い視野を持つ		目標をもっていろいろなことにチャレンジしていきたい	1
		看護に個性が出るようになりたい	1
	何事にも迅速に行動できる看護師になりたい	1	
	どんな仕事にも一生懸命に全力で取り組める	1	
	責任感を持って仕事をしたい	1	
自信のある	患者さんにとって善いことは何かと常に考えられる	1	
	看護師としてできることは何か考え続ける	1	
	根拠をもって技術や看護を行う	1	
その他	広い視野を持つ	2	
	自分の考えを自信を持って言うことができる	1	
	自信をもって患者さんと接することができる看護師	1	
	書くとき長いので書けない	1	

内容, 「自身を大切にする」「尊重される」というように自己に焦点を当てたものが確認された。

考 察

1. 共分散構造分析により確認されたスピリチュアリティと職業的アイデンティティの関連について

図1の因果仮説モデルの適合度が概ね良好であったことより, スピリチュアリティは職業的ア

イデンティティ確立促進において媒介的な役割を果たすことが示唆された。Eriksonは, 「それぞれの人生段階の心理社会的危機を解決していくことによって出現する『人格的活力』は, 次の段階の心理社会的危機を解決する力になりうる」²⁴⁾と述べている。人格的活力の機能を包摂するスピリチュアリティに職業的アイデンティティ確立促進の媒介因子としての機能があることが示唆されたことは, 確認された因果仮説モデルが妥当であ

表5 スピリチュアリティ低群の自由回答記述内容

N=54

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容等	
患者等に受け入れられる	信頼される	信頼される	5
		患者に信頼される	3
		患者・家族から信頼される	1
		患者・他の医療従事者に信頼される	1
	必要とされる	必要とされる	1
		必要とされ長く仕事を続けられる看護師	1
		人にもとめられる看護職	1
	役に立つ	人の助けになれる	1
		人の役に立つ	2
		患者さんの力になれる	1
人の役に立ち、「ありがとう」と感謝される		1	
安心できる	安心、癒しを与えられる	1	
	安全な看護の実施ができる	1	
寄り添える	患者さんに寄り添える	5	
	患者とその家族の思いに寄り添える	1	
	相手の立場に立って考えることができる	2	
患者の気持ちがわかる	患者を慮る	患者の気持ちを考えて行動できる	1
		患者と家族、両方と向き合える	1
		個別性を大事にしながら看護ができる	1
		丁寧に関わられるナース	1
	“その人らしさ”を尊重できる	1	
	精神的なケアもできる	1	
	優しい	優しい	2
やさしい		2	
思いやりのある		1	
気遣いができる		1	
周りの環境に気を配れる		1	
自己研鑽できる	成長する	確かな知識と技術を持つ	2
		自己研鑽を怠らない	1
	広い視野を持つ	視野の広い看護師	1
		自分の人生に満足いくナース	1
自身を大切に	自分の意思をもてるような世の中にしたい	1	
	自分も含めて、心が傷つけられず、人として尊重される	1	
目指す看護師象を見だせていない	分からない	2	
	定まっていない	1	
	看護職に就きたくない	1	
その他	患者の人生をいい意味で変えられる	1	

ることを示していると考え、同時にスピリチュアリティの機能向上を図るという観点から教育支援に必要であることを意味していると考え。

2. 共分散構造分析により確認された自我感とスピリチュアリティとの関連について

パーソナリティからスピリチュアリティへのパス係数は0.84であり、パーソナリティから「基本的信頼感」へのパス係数は0.84、「自律性」へのパス係数は0.42、「同一性」へのパス係数は0.62であった。このことは、スピリチュアリティの機能に「基本的信頼感」「自律性」「同一性」の状態が関与していることを示唆していると考え。

Erikson¹⁾は「同一性」の自我感の獲得には「希望」と自己決定できることの確信が必要であるこ

とに言及している。「希望」は「基本的信頼感」の、自己決定できるとは即ち「意志」であり、これは「自律性」の自我感の獲得により得られる人格的活力である。これらの人格的活力は、スピリチュアリティの構成内容である「何かを求めそれに関係しようとするところのもちよう（意気）」の機能向上に関与していると考え。

荒井が「自分を含む社会的集団、社会的現実の中で自己投入を行うということを抜きにしては、自我同一性の確立というのにはあり得ない」²⁵⁾と述べていることが示しているとおりに、職業的アイデンティティを含む「同一性」の自我感の獲得においては、自分自身の考え方や生き方について問い直したり試行錯誤したりするなど自己探求的な模索である自己投入が不可欠である。そして、天

貝²⁶⁾は「信頼感」の「自我同一性」への自己投入の側面への影響に言及し、安定した自分と他人に対する信頼感が自己を探求する際の資源になると述べている。

なぜ、「基本的信頼感」の自我感が自己投入のための資源となりうるのだろうか。銅直²⁷⁾は、自分と他人に対する信頼感（すなわち「基本的信頼感」）があると、自分が直面する苦痛な出来事であったとしても、良い方向に意味づけし理解していく土壌がつくられやすいことを指摘し、「同一性」と有意感には正の相関関係があることも見出している。

看護学生の場合、看護職を志す自己を確認することが自己投入であるが、教育課程の過密さや1年近くにわたる臨地実習など、その道程は決して平坦ではなく辛いことも少なくない。しかし、看護学生に内在化された「基本的信頼感」の自我感が高い状態であると、「希望」「意志」「目的」の「人格的活力」を包摂する「何かを求めそれに関係しようとするところの持ちようである（意気）」の機能が向上しやすく、それは自己投入を続けようとする力になると考える。そして、同時に「観念の高まりにより青年期の心理社会的危機の解決の成果である「忠誠」という「人格的活力」を出現させる。この「忠誠」を「価値の体系について、避けることのできない矛盾があっても、自分で自由に選んだものに尽くすところをもち続ける能力」¹⁵⁾と Erikson は定義づけている。看護学生の「忠誠」はすなわち看護という職業への更なる自己投入において大きな力となり、看護職アイデンティティの確立に繋がると考えられる。

以上のことより、「基本的信頼感」は「同一性」の自我感とスピリチュアリティの機能を高める上での重要な自我感であると考えられる。

看護学生がその学業生活の中で看護職を目指す過程で行う自己投入は自身と置かれている環境（クラスメイト、患者、臨地実習指導者、看護教員、看護学等）の双方向に向けられている。自己投入をとおして、「何かを求めそれに関係しようとするところの持ちようである（意気）」と「自分自身やあること柄に対する感じまたは思い（観念）」を含むスピリチュアリティの機能が向上す

る。その結果、職業的アイデンティティの下位因子である「選択自信」「職業観確立」「社会貢献志向」が高まるのであるが、この状態は Erikson の提唱する自分自身の価値を信じそれに対して貢献し応えようとする「忠誠」という人格的活力の出現にも該当すると考える。

3. 自由記述回答内容から確認されたサブカテゴリーについて

スピリチュアリティ評定尺度総A得点の高低に関わらず両群に確認されたサブカテゴリーは、「信頼される」「必要とされる」「安心できる」「寄り添える」「患者を慮る」「優しい」と、患者等から受け入れられる看護師象をイメージしたものであった。低群においては、更にサブカテゴリー「自身を大切にする」および、サブカテゴリー化されなかったが「尊重される」と自己に焦点を当てた内容が確認された。これらは看護学生の承認欲求の表れであると考えられる。

この結果は、Erikson が「若者が周囲の人々から『承認される』ことを必要としている」¹⁾と述べていることと矛盾しない。記述内容の傾向は、看護学生の職業的アイデンティティを確立するには、看護学生にとって重要である大人、この場合は、臨地実習指導者や患者、そして看護教員等からの「承認」が大きな意味を持つことを示唆していると考えられる。

また、スピリチュアリティ評定尺度A総得点高群の内容には、患者等から受け入れられるような看護職になるための努力志向を示すものが確認された。このことは、自己投入する力が高まっていることを示唆していると考えられる。

4. 職業的アイデンティティ確立を促進する教育支援について

先述したとおり、スピリチュアリティの機能向上を図るという観点が教育支援に必要であることが示唆された。そこで、はじめにスピリチュアリティの機能向上のための教育支援について検討したい。

伊藤ら²⁸⁾は臨地実習中に危機状態に陥りスピリチュアリティに揺らぎのある看護学生のスピリ

チュアリティの覚醒（高まり）に影響する要因として、「教員の後方支援」「仲間の励まし」「自分を認めてくれる人の存在」「どうすれば良いか考え続ける」を抽出している。一方で、比嘉らが提唱した対象の内面的成長を促進させる言語的・非言語的コミュニケーションのスキル（技能）である援助的コミュニケーションスキル²⁹⁾は、その性質から対象のスピリチュアリティに影響を及ぼすと想定される。そのスキル（技能）には「共感的確認」・「保証・激励」「支持的話題」「受容的話題」等がある²⁹⁾。伊藤らがスピリチュアリティの覚醒（高まり）に影響する要因として挙げた「教員の後方支援」と「仲間の励まし」は、これら援助的コミュニケーションスキル（技能）に該当すると考えられる。特に「保証・激励」は「安心させる、または励ます、または勇気づける」スキル（技能）であり、これは伊藤ら²⁸⁾の述べる「教員の後方支援」の一部であり、「仲間の励まし」も含まれると考える。

そして、「自分を認めてくれる人の存在」は誰かから「承認」されることを、「どうすれば良いか考え続ける」については看護への「自己投入」を意味していると考えられる。

ところで、職業的アイデンティティの確立には、特に「基本的信頼感」の自我感の高まりとスピリチュアリティの機能向上が寄与することが、共分散構造分析の結果により示唆された。故に、「基本的信頼感」の自我感を高める支援が職業的アイデンティティ確立のための支援の方策の一つになりうると考える。

そこで、次に看護学生の「基本的信頼感」の自我感を高める支援について検討したい。Eriksonは「基本的信頼感」は乳児期に獲得されるものとしている¹⁾。しかし、天貝は青年期において再獲得（成熟）期を迎える可能性があることを指摘している²⁶⁾。このことは、「基本的信頼感」の自我感が低いままで青年期の発達段階を迎えた学生であっても、何らかの支援を受けることにより「基本的信頼感」の再獲得あるいは高めることが可能であることを示していると考えられる。

天貝は高校生を対象とした信頼感の発達を促す研究を行い、その結果、信頼感の発達に影響を及

ぼす要因として「受容経験」「承認経験」「親との密接な関わり経験」「対人的傷つき経験（これのみ負の相関関係）」を挙げている²⁶⁾。先述したとおり、伊藤らは臨地実習中に危機状態に陥った学生のスピリチュアリティの覚醒（高まり）に影響する要因として、「教員の後方支援」「仲間の励まし」「自分を認めてくれる人の存在」「どうすれば良いか考え続ける」などを抽出しているが、「教員の後方支援」「自分を認めてくれる人の存在」はまさしく「受容経験」「承認経験」である。看護学生は、「受容」と「承認」を経験しながら、自身と置かれている環境（クラスメイト、患者、臨地実習指導者、看護教員、看護学等）へ自己投入し、「同一性」の自我感を高めていく。すなわち、「同一性対同一性の拡散」という心理社会的危機の最中にあっても、周囲の重要な大人たちの「承認」「受容」そして、「保証・激励」といった教員の後方支援と「仲間の励まし」を受けることで、学生はより一層安心して自己投入に没頭することができ、それはスピリチュアリティの機能向上および人格的活力である「忠誠」の出現に繋がる。その「忠誠」は更なる自己投入のための力となり、職業的アイデンティティの下位因子である「職業選択自信」「職業観確立」「社会貢献志向」を高め、職業的アイデンティティの確立のための原資となると考える。

以上のことより、共分散構造分析により得られた結果は職業的アイデンティティ状態の確立のためには、「承認」「受容」「保証・激励」の教育支援が効果的であることを示唆していると考えられる。

結 語

看護学生の職業的アイデンティティとスピリチュアリティおよびパーソナリティの関連性を明らかにするために、看護学生450人を対象に質問紙調査を実施し共分散構造分析を行った結果は以下のとおりであった。

1. 職業的アイデンティティの確立促進にはパーソナリティの様相が関連し、スピリチュアリティが媒介的な役割を果たすことが示唆された。

- 2) 看護学生の職業的アイデンティティの確立促進には、パーソナリティの「基本的信頼感」「同一性」「自律性」の自我感を高め、スピリチュアリティの機能を高める教育支援としての「受容」「承認」「保証・激励」が有効である可能性が示唆された。

本研究の限界と今後の課題

本研究は横断研究である。確認されたパーソナリティ、スピリチュアリティおよび職業的アイデンティティ3つの潜在変数の関係性に基づき得られた因果仮説モデルおよび教育支援への方策は推論に留まる。今後、得られた教育支援への示唆を積極的に活用し、その効果を検証していく必要がある。

謝 辞

A県看護教育機関連絡協議会所属校の関係者様、そして調査を実施した時期に看護専門学校に在籍しておられました学生および教員の皆様、各尺度の使用許可および助言をくださった諸先生方、本研究に関わっていただいた全ての方に感謝いたします。

本研究はJSPS 科研費 JP19K10924 の助成を受けたものです。

利益相反の開示

本研究における利益相反はない。

引用文献

- 1) エリク・H・エリクソン：アイデンティティとライフサイクル（西平直，中島由恵訳）。誠信書房，東京，2011。
- 2) 中谷陽輔，友野隆成，佐藤豪：現代青年においてアイデンティティ（自我同一性）の危機は顕在化するのか。パーソナリティ研究，20（2），63-72，2011。
- 3) 千葉朝子：看護学校在学中の看護師志望意志の変化と影響因子および職業的アイデンティティとの関連。国立病院看護研究学会誌 9（1），2-12，2013。
- 4) 高畑正子，大川明子，梅田徳男：看護大学生の特性的自己効力感が職業的アイデンティティに与える影響－学年間の比較－。中京学院大学看護学部紀要 5（1），27-39，2015。
- 5) 高瀬園子，佐藤美佳，西沢義子：看護学生における職業的アイデンティティの文献レビュー。保健科学研究 9（1），1-10，2018。
- 6) 柴田久美子：職業的アイデンティティ理論に関する考察－理論の系譜と研究の課題－。明星大学社会学研究紀要，24，23-29，2004。
- 7) 藤井恭子，野々村典子，鈴木純恵ほか：医療系学生における職業的アイデンティティの分析。茨城県立医療大学紀要 7，131-142，2002。
- 8) 落合幸子，紙屋克子，マイマイティ パリダほか：エキスパート・モデルが看護学生の職業的アイデンティティに及ぼす影響－自己効力感・評価懸念との関連からみた効果－。茨城県立医療大学紀要，11，71-78，2006。
- 9) マイマイティ パリダ，落合幸子，池田幸恭ほか：職業的アイデンティティを高める実習直前指導が看護学実習での学びに及ぼす効果。茨城県立医療大学紀要，14，77-86，2009。
- 10) 片岡祥：講義を用いた看護学生の職業的アイデンティティを高める取り組み－臨床場面を想定したロールプレイの効果の検討－。応用心理学研究，40（1），56-62，2014。
- 11) 浜多美奈子，比嘉勇人，田中いずみほか：看護学生としてのアイデンティティと私的スピリチュアリティの関連および看護学生アイデンティティ確立に向けた方策の検討。富山大学看護学会誌 16（2），107-124，2017。
- 12) 上村建二郎：スピリチュアリティと意味（meaning）。先端倫理研究 6，64-82，2012。
- 13) 樫尾直樹：スピリチュアリティ革命－現代霊性文化と開かれた宗教の可能性－。春秋社，東京，2010。
- 14) 藤村和久：エリクソンのパーソナリティ構成要素の測定尺度（EPCS）の構成－人生周期における基本的信頼感から親密性－。大阪樟蔭女

- 子大学人間科学研究紀要7, 149-161, 2008.
- 15) エリク・H・エリクソン: 洞察と責任 [改訳版] - 精神分析の臨床と倫理. (鑑幹八郎訳), 誠信書房, 東京, 2011.
- 16) 西平直: E・H・エリクソンの virtue 概念 - 発達の視点と規範性の問題 -. 教育学研究 52 (2), 214-223, 1985.
- 17) 比嘉勇人: 神気性 (スピリチュアリティ) とは. 看護診断 13 (1), 78-83, 2008.
- 18) 片瀬和夫: E・H・エリクソンにおける二次的社会的科への視点 - ライフ・サイクル論の意義をめぐって -. 社会学評論 34 (3), 254-269, 1983.
- 19) 新見明子, 黒田裕子, 合田友美ほか: 看護学生の職業的アイデンティティ形成に関する研究 (第一報) - 看護学生の対人援助能力 -. 川崎医療短期大学紀要 26, 16, 2006.
- 20) 比嘉勇人: 精神看護学における「精」「神」論考: 心理性 (メンタリティ) と神気性 (私的スピリチュアリティ). 富山大学看護学会誌, 16 (2), 97-106, 2017.
- 21) 岩井浩一, 澤田雄二, 野々村典子他: 看護職の職業的アイデンティティ尺度の作成. 茨城県立医療大学紀要, 6, 57-66, 2000.
- 22) 落合幸子, 本多陽子, 落合良行ほか: 医療系大学への進路決定プロセスと入学後の職業的アイデンティティとの関連. 医学教育, 37 (3), 141-149, 2006.
- 23) 藤村和久: グループ主軸法による相関性の高い行動特性の測定尺度の構成 - Erikson のパーソナリティ構成要素の測定尺度の構成 -. 大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要 3, 107-117, 2004.
- 24) エリク・H・エリクソン: 幼児期と社会 I (仁科弥生訳). みすず書房, 東京, 1993.
- 25) 荒井真太郎: 「自己投入」について - 自尊感情, 発達段階との関連 -. 関西国際大学研究紀要 6, 111-122, 2005.
- 26) 天貝由美子: 信頼感の発達心理学 - 思春期から老年期に至るまで -. 新曜社, 東京, 2001.
- 27) 銅直優子: アイデンティティと信頼感が首尾一貫感覚の形成に及ぼす影響. 流通科学大学論集 - 人間・社会・自然編 - 31 (1), 37-48, 2018.
- 28) 伊藤祐紀子, 天谷美紀: 臨地実習において看護学生が体験したスピリチュアリティの揺らぎ. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 17 (1), 67-76, 2021.
- 29) 杉山由香里, 比嘉勇人: 看護師の基礎的コミュニケーションスキルと援助的コミュニケーションスキルの関連性. 日本精神保健看護学会誌, 28 (1), 12-20, 2019.

Association between nursing students' professional identity, personal spirituality, and personality

Kaoru MAKINO¹⁾, Hayato HIGA²⁾

1) Toyama Medical Welfare College Department of Nursing

2) Department of Psychiatric Nursing, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama

Abstract

This study aimed to determine the association between professional identity, personal spirituality, and personality of nursing students, and to obtain suggestions on educational support to promote the establishment of professional identity. An anonymous, self-administered survey was conducted in 567 nursing students within Prefecture A, and 450 valid responses were obtained. Using the response data, covariance structure analysis was conducted, and a causal hypothesis model that showed a generally good goodness of fit was utilized. Moreover, from the standardized coefficient of the utilized causal hypothesis model, “a direct effect from personality to professional identity of 0.27” and “an indirect effect from personality to professional identity through personal spirituality of 0.34” were found. Based on these results, it was suggested that educational support (acceptance, recognition, assurance, encouragement) that increases the “fundamental sense of trust,” “identity,” and “autonomy” that comprise a nursing student’s personality is effective in promoting the establishment of professional identity.

Keywords

Professional identity, Personal spirituality, Personality, Virtue